特277
495
特277-495
76W10434

地質調査所一覽

始

目次

一、沿革……一頁
二、事業……八
三、組織……一〇
四、出版物……一〇
五、職員……一四
附圖
地質圖目錄圖

地質調査所寄贈本

76W10434

地質調査所一覽

（地質調査所所在地
東京市京橋區木挽町七丁目）

一、沿革

地質調査所ハ明治十五年二月十三日ノ創立ニ係リ、爾來年ヲ累ヌルコト茲ニ五十年ナリ、然レドモ之ヨリ先キ明治五年北海道開拓使ハ米國人らいまんヲ傭聘シテ同道ノ炭田其他ノ地質調査ニ從事セシメ、明治七年內務省內ニ地理寮木石課新設セラルルヤ、白野夏雲ニ命ジテ鑛物ヲ蒐集セシメタル等ノコトアリテ、本邦ノ地質鑛物調査事業ハ本所創立以前既ニ其端ヲ發シ、同十年和田維四郎ハ甲斐及伊豆ノ地質ヲ調査シ、內地ニ於ケル地質調査ノ先驅ヲ爲セリ、當時東京大學御傭教師獨逸人えどむんど・なうまん地質調査ノ必要ヲ論ジ、地質調査所設立ニ關シ政府ニ建議スル所アリ、之ト相前後シテ東京大學理學部助教和田維四郎亦同趣旨ヲ以テ政府ニ勸說セルヲ以テ、同十一年內務省地理局內ニ地質課新設セラレ、赤坂區葵町三番地木石陳列所ニ於テ其事業開始セラレ、荒井郁之助課長

ヲ申付ケラレタリ

明治十二年六月二日品川彌次郎地理局長ニ任ゼラルルヤ、和田維四郎地質課長心得申付ケラレ、技術方面ハなうまん之レガ指導ニ衝リ、地質調査ヲ豫察及詳査ノ二種トシ、豫察ハ縮尺二十萬分一、詳査ハ縮尺四十萬分一ニ依リテ地質圖及說明書ヲ刊行スルコトトシ、土性調査ハ國別ニ依リ縮尺十萬分一土性圖及說明書ヲ刊行スルコトトシ、十二ヶ年間ニ事業完成ノ計畫ヲ樹テ之レガ實施準備ニ着手シ、明治十三年一月をすかる・こるしえるとヲ東京大學ヨリ轉傭シテ分析係長ヲ命ズ、明治十三年三月五日地質課ハ地理局ヨリ勸農局ヘ移サレタルモ和田維四郎依然課長心得申付ケラレ、品川彌次郎亦局長タリ、同年八月賜暇歸國中ナリシなうまんノ紹介ニ依リげをるぐ・りぶつしえるハ獨逸國ヨリ來着土性係長ヲ命ゼラレ、同年九月をつと・しゆつと亦同樣來着地形係長ヲ命ゼラル、同月なうまん亦歸朝シタルヲ以テ同人主裁ノ下ニ諸般ノ計畫定メラレ、愈調査實施ヲ見ルニ至リタルモ、同十四年三月契約違背ノ廉ヲ以テりぶつしえるヲ解傭シタリ、同十四年四月七日勸農局廢セラレ農商務省新設セラルルヤ、地質課ハ同省農務

局ノ一課トナリ、和田維四郎同課長申付ケラル、同月十八日地質課ヲ地質調査所ト改稱シタルモ依然農務局ノ管理ニ屬セシノミナラズ同年六月二十五日再ビ地質課ノ舊稱ニ復セシメラレタリ、同十五年一月しゆつとヲ解傭ス、同年二月十三日農務局地質課ヲ廢シテ農商務省直轄ノ地質調査所ヲ置キ、權少書記官和田維四郎地質調査所長仰付ケラル、是ニ於テ地質調査所ノ組織完成シ、事業亦其面目ヲ改メ、地質調査事業ノ基礎茲ニ全ク定マルニ至レリ、當時ノ處務規定左ノ如シ

地質調査所ハ地下埋藏ノ天產物ヲ探リ、殖產ノ富源ヲ究メ、產業改進ノ方法ヲ考案シ、其適用ヲ指示スル所ナリ、其分掌ヲ定ムル左ノ如シ

地質係　地質ヲ調査シ、地質圖ヲ調製シ、鑛產物ノ所在多寡並ニ良否ヲ檢定ス

土質係　土壤鑛肥等ヲ調査シテ土性圖ヲ調製シ、土質ト植物トノ反應關係ヲ精査ス

分析係　產業ノ材料ヲ試驗若シクハ分析シテ改進ノ路ヲ示シ、又特ニ起業ノ方法ヲ按ス

地形係

地形ヲ測量シ、山川ノ位置高低ヲ實測シテ地形圖ヲ調製シ、殖産材料ノ所在並ニ運搬ノ便否ヲ考察スルノ用ニ供ス

庶務係

所中公文ノ受付、所員ノ進退及他係ノ主管ニ屬セザル事務ヲ掌理ス

同年十一月曩ニ解傭シタルりぶつしえるノ後任トシテまつくす・ふえすか來着土性係長ニ任ゼラル、同十六年こるしえるとヲ解傭ス、同十七年二月所長和田維四郎ハ地質調査事業取調ノ爲メ歐洲ニ差遣セラレ、同十八年六月なうまんノ任期滿ツルヤ傭ヲ解キ、原田豐吉其後任トシテ技術監督ニ衝リ、同年七月和田所長歸朝更ニ事業ノ進行ヲ圖ルコトト爲レリ、同十八年十二月地質調査所ヲ改メテ地質局ト爲シ、地質、土性、分析、地形、庶務ノ五課ヲ設ケ、和田維四郎局長心得、原田豐吉次長心得命ゼラル、同十九年二月分析課ハ之ヲ大臣官房ニ移シ、庶務課ハ之ヲ廢止ス、同三月六日和田維四郎局長ニ原田豐吉次長ニ任セラル、同五月六日麴町區道三町ノ農商務省内ニ移轉ス、同二十三年六月二十日官制改革ニ際シ、地質局ヲ廢シテ再ビ農商務省直轄ノ地質調査所ヲ置クコトトナルヤ、各課ヲ改メテ係ト爲シ、曩ニ大臣官房ニ移管シタル分析課ヲ復歸セシメテ分析係ト爲シ、和田

維四郎鑛山局長ニ任セラレ、地質調査所長兼任ヲ命セラル、同月原田次長病氣ノ故ヲ以テ辭任ス、同二十四年六月各係ヲ改メテ課ト爲ス、同二十六年三月和田維四郎本官並ニ兼官ヲ免ゼラレ、同四月農商務技師理學博士巨智部忠承地質調査所長ニ兼任セラル

明治三十年六月一日地質調査所ヲ廢シテ地質課ト爲シ鑛山局ニ屬セシメタルモ同三十一年十一月復タ地質調査所ヲ置ク、同三十三年四月燐鑛調査ノ爲ニ又タ同七月油田調査ノ爲ニ孰レモ臨時職員ヲ增加シ、翌三十四年燐鑛調査事業ハ之ヲ新設ノ肥料鑛物調査所ニ移シタルモ油田調査事業ハ更ニ擴張セラレタリ、同三十六年七月官民ノ依頼ニ係ル分析試驗ニ關スル事務ヲ工業試驗所ニ移管ス、同年十二月臨時事業タル油田調査ヲ本所ノ常務ト爲スコトトス、同三十七年ふえすか解傭セラレ、爾後事業ハ擧ゲテ邦人技術官ノミニ依リテ遂行セラレ、傭外國人ハ全ク其跡ヲ絶ツコトト爲レリ、同三十八年三月土性課ノ事業ハ之ヲ農事試驗場ニ移ス、同年七月十日所長理學博士巨智部忠承本官ヲ免セラレ、技師理學博士鈴木敏後任ヲ命ゼラル、同月本所ヲ鑛山局ニ屬セシメ、各課ヲ改メテ係

ト爲ス、同三十九年三月改定ノ分課規定左ノ如シ

第二十七條　鑛山局ニ鑛政課、鑛業課、庶務課及地質調査所ヲ置ク

第三十一條　地質調査所ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一、地質ノ調査ニ關スル事項

二、地質ト土工ノ關係並ニ鑛產物及工業用材料ノ調査ニ關スル事項

三、地形測量ニ關スル事項

四、地質調査上必要ナル材料並ニ鑛產物及工業用材料ノ分析ニ關スル事項

五、地質圖及其說明書其他報告書類ノ編纂刊行ニ關スル事項

明治三十九年九月本所廳舍ヲ麴町區道三町ヨリ京橋區木挽町農商務省內ニ移轉ス、同四十年三月所長鈴木敏辭任シ技師井上禧之助所長ニ任ゼラル、同四十三年四月臨時費トシテ特ニ鑛物調査費支出ノ承認ヲ得、先ヅ北海道ノ鑛物調査ニ着手ス、蓋シ北海道ハ從來地質調査區域外ニ置カレ、何等調査スル處ナカリシヲ以テ、一般的地質調査ハ之ヲ後日ニ讓ルトスルモ、其鑛物ニ關シテハ特ニ至急調査施行ノ必要ヲ感シタルニ因ル、大正二年七月經費節減ノ爲メ明治三十三年以來施行シ來リシ油田調査事業ヲ中止ス、大正六年度ヨリ縮尺七萬五千分一ニ依ル地質圖幅ノ調製ニ着手ス、蓋シ舊計畫ニ係ル縮尺二十萬分一ニ依ル地質圖

幅ノ調査ハ近ク完了スヘキヲ以テ、當時ノ所長井上禧之助ノ考案ニ基キ、更ニ縮尺大ナル本圖ノ刊行ヲ企圖シ、大正四年三月既ニ上司ノ決裁ヲ經タルモノナリ同六年八月曩ニ一旦中止シタル油田調査事業再開ノ爲メ新ニ臨時職員設置セラル、同八年四月更ニ臨時職員ヲ置キ、工業用原料鑛物調査ヲ開始ス、同年縮尺二十萬分一地質圖敦賀圖幅ヲ刊行シ、本所創立以來從事シタル同縮尺ニ依ル地質圖幅刊行事業ヲ結了ス、同十年四月農商務省ニ於テ受託調査ノ制度ヲ定メ汎ク官民ノ依賴ニ應ジ地質、鑛床、水脈、溫泉ノ調査ニ從事スルコトトナルヤ、本所ニ之ニ關スル職員ノ一部ヲ置クコトトナル、同十二年二月行政整理ノ爲メ職員若干ヲ減少シ、同年度末更ニ工業用原料鑛物調査事業廢止ノ爲メ關係職員ヲ解任ス、同十二年九月一日大震火災ニ際シ本所亦災厄ニ罹リ、明治十一年內務省內ニ地質課トシテ創設以來四十六年間蓄積シタル多量ノ調査資料、出版物、參考用內外圖書、岩石、鑛物、化石標品類等擧ゲテ烏有ニ歸セリ、爾來本所ハ農商務大臣官邸、司法大臣官邸等ニ於テ執務シ、十一月二十四日、廳舍ノ假修理成ルヤ職員ノ大部ハ本所ニ復歸スルニ至リタルモ尙ホ一部ハ臨時窒素研究所內又ハ三菱合資會社

館内等ニ於テ執務シ、其ノ全部本所ニ復歸スルニ至リシハ翌十三年八月ナリ、同十三年十二月行政及財政整理ノ爲メ職員ヲ減ジ且ツ油田調査及鑛物調査ノ兩事業ヲ中止スルニ決シ、職員ノ解任セラルルモノ多數ニ上リ、所長理學博士井上禧之助亦退官シ、當時鑛山局勤務商工技師金原信泰所長ヲ拜命ス、同十四年四月商工省新設ニ際シ、本所ハ同省所屬ト爲リ、職員若干增員セラレ、主トシテ縮尺七萬五千分一地質圖幅及其說明書刊行ヲ圖ルコトトナリ以テ今日ニ及ベルモ、必要ニ應ジテ、特別調査ニ從事シ又タ官民ノ依囑ニ基キ特種ノ調査事業又ハ海外ノ調査ニ從事セルコト亦少カラザルナリ

之ヲ要スルニ本所ハ創立以來其組織及作業員其他ノ點ニ於テ幾多ノ變遷ヲ經以テ今日ニ至レルモノナルモ、其作業ハ終始一貫シ、廣ク地質圖ヲ編製刊行シテ諸般事業ノ參考ニ資シ、亦重キヲ地質學ノ應用ニ置キ、有用鑛物土石類賦存ノ狀態ヲ調査シテ特別報告圖書類ヲ刊行シ、以テ當業者ノ利便ニ供セリ

二、事業

本所過去ノ事業ニ就テハ前述沿革ノ條下略之ヲ揭記シタリ、因テ左ニ現在ノ事業ニ就テ概說センニ

現在ノ事業ハ全國(北海道、朝鮮、臺灣、樺太ヲ除ク)ニ亘リ縮尺七萬五千分一ノ地質圖幅及其說明書ヲ刊行スルニ在リ、卽チ全國ヲ經緯度ニ依リテ區畫シ(附圖參照)經度三十分、緯度十五分ニ亘ル區域ヲ一圖幅トシ、圖上彩色ニ依リテ諸種ノ岩石分布ノ狀態ヲ明ニシ、記號ニ依リテ有用鑛物土石類所在地點ヲ示シ說明書中ニハ各岩石ノ性狀相互關係ヲ說明シ、有用鑛物土石類ニ對シテハ其性狀、賦存狀態、利用ノ狀況等ヲ記述シ特ニ重要ナルモノニ就テハ特別圖及說明書又ハ報告書ヲ編製シ孰レモ之ヲ公刊ニ附シテ關係諸官廳及民間ニ分配スルモノトス

調査員野外調査ニ際シテハ陸地測量部發行ノ二萬分一圖又ハ五萬分一圖ヲ用ヒ、之ニ諸岩石露出ノ狀況ヲ記入シ、逐次諸岩石相互ノ關係ヲ究メ、有用鑛物土石類及化石ノ產出等ニ就テハ特ニ留意調査シテ、之レガ記事ヲ野帖ニ留メ歸所後內業トシテハ諸岩石、鑛物、化石等ノ檢定分析、其他其性質ヲ明ニスルニ必要ナル作業ニ從事シ、以テ圖幅ノ調製及說明書ノ編述ヲ完了スルモノニシテ、調査員

一名ノ功程平均一ヶ年一圖幅トシ、野外調査期間四ヶ月、内業期間八ヶ月トス

前記縮尺七萬五千分一地質圖幅ノ總數ハ三百二十ニシテ其今日迄ニ刊行セラレシモノ四十一ナリ(附圖參照)

三、組織

本所ヲ分チテ地質係、地形係、分析係、庶務係トシ、別ニ鑛物陳列館及文庫ヲ置ク

地質係ハ各種地質圖及說明書又ハ報告類ノ編製ニ從事シ、地形係ハ地質調査ニ必要ナル地形測量及地質圖ノ原圖タル地形圖ノ作製ヲ掌リ、分析係ハ各種岩石鑛物其他ノ分析ヲ施行シ、庶務係ハ文書ノ往復及會計事務其他ノ雜務ヲ處理ス、而シテ鑛物陳列館ハ所員ノ採集又ハ寄贈購入ニ係ル岩石、鑛物、化石ヲ陳列シテ公衆ノ觀覽ニ供スル所トシ、文庫ハ事業遂行上必要ナル參考圖書類ヲ整理保存スル所ナリ

四、出版物

本所出版物ニ關シテハ昭和七年七月地質調査所出版物目錄ヲ刊行シテ之ヲ示シタルモ爾後增加ノ分ヲ加ヘ其概要ヲ記スレバ左ノ如シ

(A) 和文及和歐文ノ部

(I) 地圖類

(a) 地形圖

(1) 總圖 三枚

(2) 四十萬分一地形圖 十一枚

(3) 二十萬分一地形圖 百二枚

(b) 地質圖

(1) 總圖並ニ說明書 六種

(2) 四十萬分一地質圖 十枚

(3) 二十萬分一地質圖幅並說明書 九十八部

(4) 七萬五千分一地質圖幅並說明書 四十一部

(5) 特別圖並說明書 九部

(6) 油田地質及地形圖並說明書　二十九部

(c) 鑛產圖

(1) 總圖　一枚

(2) 四十萬分一鑛產圖　三枚

(d) 應用地質圖　四枚

(e) 土性圖

(1) 十萬分一國別土性圖並說明書　三十六部

(2) 總圖及特別圖　三種

(Ⅲ) 報文類

(a) 地質調査所年報　四部

(b) 地質要報　四十二部

(c) 地質調査所報告　百十四部

(d) 鑛物調査報告　三十七部

(e) 工業原料用鑛物調査報告　二十二部

(f) 特別報告　二部

(g) 地質調査所報文分析之部　六部

(h) 雜類　十七部

(B) 歐文ノ部

(a) 地形圖

(1) 總圖　一枚

(2) 四十萬分一地形圖　十一枚

(3) 二十萬分一地形圖　九十八枚

(b) 地質圖

(1) 總圖並說明書　一種

(2) 四十萬分一地質圖　十枚

(3) 二十萬分一地質圖　九十八枚

(c) 鑛產圖　三枚

(d) 報文類　二十五部

五、職員

昭和八年四月現在職員左ノ如シ

所長、技師　金原信泰
技師　分析係長　大野赳
技師　地質係長　渡邊久吉
技師　地形係長　佐藤戈止
技師　千谷好之助
技師　植村癸巳男
技師　飯塚保五郎
技師　石井清彦
技師　鈴木達夫
技師　村山賢一
技師　赤木健
技師　三土知芳
屬　佐藤友治郎
技手　久松將四郎
技手　神村龍造
技手　相見角治
技手　平塚隆治
技手　紺野芳雄
技手　栗山治郎
技手　奥田稔
技手　村田近良
技手　米谷菊太郎
技手　武田季次郎
技手　小川清澄
技手　土岐次郎
技手　枝

技手　笹原榮雄
技手　佐藤源郎
囑託　及川常吉
雇　柏木重次郎
雇　河野輝一
技手　小宮山湛
技手　小松直藏
囑託　山田英雄
雇　秋本龍雄
技手　松崎美房
囑託　藪部龍一
雇　中江英治
雇　鈴木昇

過去在職者ノ内主要ナルモノ左ノ如シ

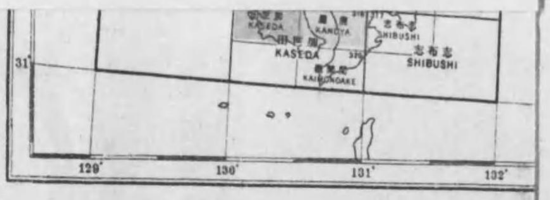
前所（局）長（自明治二十五年二月至同二十六年三月）和田維四郎
（自明治二十六年四月至同三十八年七月）巨智部忠承
（自明治三十八年七月至同四十年三月）鈴木敏
（自明治四十年五月至大正十三年十二月）井上禧之助
前局次長（自明治十八年十二月至同二十三年六月）原田豐吉
前地質調査長（自明治十五年二月至同十八年六月）なうまん
（自明治二十年二月至同二十年七月）山田皓
前地質課（係）長（自明治十九年三月至同二十年二月）山下傳吉
（自明治二十一年十一月至同二十一年二月）中島謙造
（自明治二十六年四月至同二十六年四月）巨智部忠承

（自明治二十六年四月至同三十一年二月）中島謙造
（自明治三十一年十一月至同三十五年十一月）井上禧之助
（自明治三十五年十一月至同三十八年七月）鈴木敏
（自明治三十八年七月至同四十年四月）大塚專一
（自明治四十年四月至大正四年五月）大築洋之助
（自大正四年五月至同十年十月）小林儀一郎
（自大正十年十月至同十四年二月）小倉勉
（自大正十四年二月至昭和七年三月）大井上義近

前土性課（係）長
（自明治十五年十一月至同十八年十二月）ふえすか
（自明治二十二年一月至同三十六年十二月）渡部朔
（自明治三十六年十二月至同三十八年三月）鴨下松次郎

前地形課（係）長
（自明治十九年三月至同三十八年六月）關野修藏
（自明治三十八年六月至同三十九年四月）金原信泰
（自明治三十九年四月至同四十一年六月）井上禧之助
（自明治四十一年六月至大正二年十一月）伊木常誠
（自大正二年十一月至同十四年八月）山根新次
（自大正十四年八月至昭和七年二月）伊原敬之助

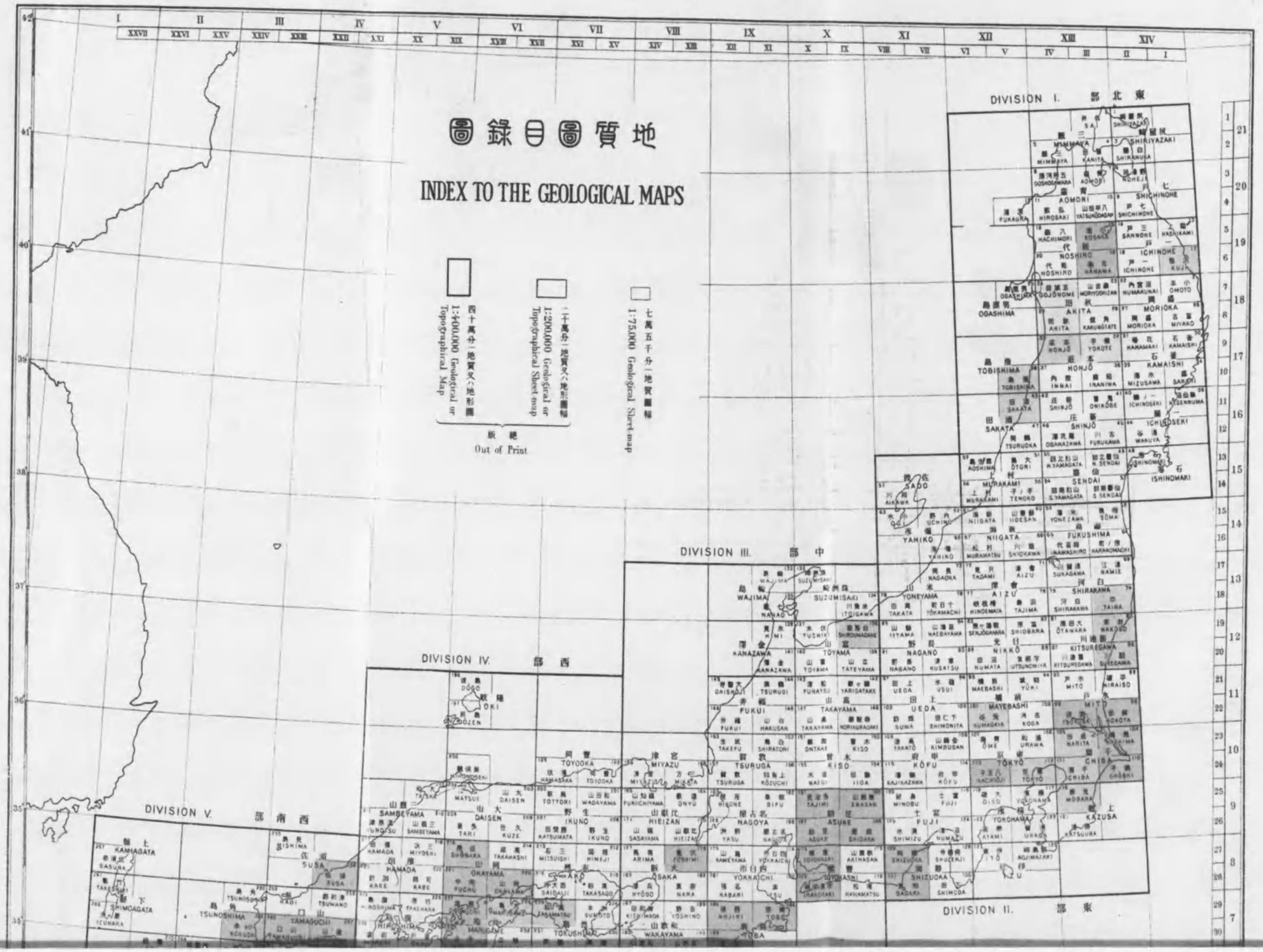
前分析課（係）長
（自明治十五年二月至同十六年十一月）こるしえると
（自明治十九年二月至同二十一年三月）高峰讓吉
（自明治二十一年四月至同三十一年十月）高山甚太郎
（自明治三十一年十一月至同三十五年五月）小寺房治郎
（自明治三十五年六月至大正十三年十二月）清水省吾

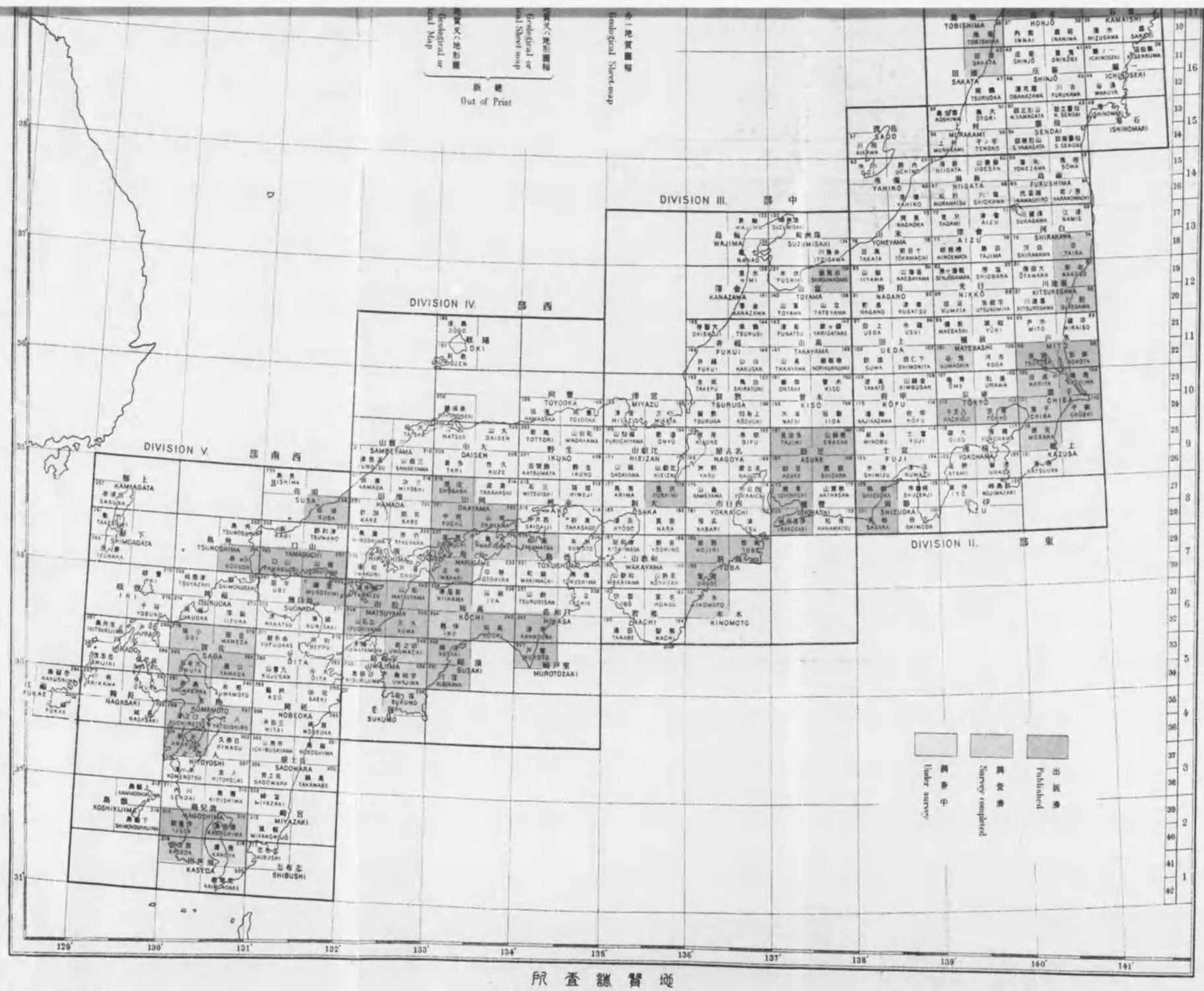


76W10434

地質圖目錄圖

INDEX TO THE GEOLOGICAL MAPS





76W10434

帝國地質調査所
IMPERIAL GEOLOGICAL SURVEY OF JAPAN
1933 年八和昭

昭和八年五月十五日印刷
昭和八年五月十七日發行

（非賣品）

商工省

東京市京橋區銀町二丁目七番地六
印刷者　小松善作

東京市京橋區銀町二丁目七番地六
印刷所　小松印刷所

終